

NO41

重爆撃機の墜落

所在地は多気町（旧勢和村）車川



1945年5月22日、日本の爆撃機が車川の山中に激突して、搭乗していた若者8人が全員死亡するという痛ましいできごとがありました。

彼らは、米空軍の重要拠点であった硫黄島基地を夜間攻撃するという任務を帯びていました。

21日の夜、出撃命令がくだり、浜松飛行場を発ちました。

悪天候のなかを硫黄島に達し、「爆撃成功」の打電をしました。その後、浜松基地に帰来方向を要求しましたが、基地からの返信は受信不能でした。

そして浜松に帰ることもできず、「照空燈を照射せよ」の緊急信を最後に、燃料切れによってこの地に墜落したのです。

遺族には墜落場所は知らされず、40数年後、旧陸軍士官学校の同窓会誌によって初めて公表されました。

その後、村の人たちと遺族の方々の心温まる交流により墓標を建て、合同慰霊祭がおこなわれました。